

北海道天売高等学校長 田尻 勝敏 ～今年度を振り返って～



ここ天売にも、木々の芽吹や暖かな日射しに春の訪れを感じられるようになってきました。平成27年度、教育振興会・同窓会・PTAをはじめとする地域の方々のご協力のもと、教育活動を実施できましたことにお礼申し上げます。

本校は、平成27年度から島内の児童生徒数の減少に伴う存続の危機の打破を図るため島外からの入学生を積極的に募集する生徒募集活動を展開しました。教育振興会・同窓会・PTA・地域有志、羽幌町教育委員会、学校が連携し生徒募集推進協議会を立ち上げ、島内での受け入れ体制の整備を行いました。また、生徒募集に特化した地域おこし協力隊員の木内さんは、札幌・旭川を中心に約200校にわたる中学校訪問でPR活動を行いました。学校では、募集活動の一環として、7月に学校説明、水産実習（ウニ缶）、観光船による海鳥観察、ウトウのナイトウォッチング等を内容とするオープンスクールを実施し、天売高校・天売島の魅力を体験してもらいました。実施において、多くの関係機関にご協力をいただき有り難うございました。

教育目標の「社会や地域の期待に応え、郷土に誇りを持ち、将来を担う人を育む」の具現化に向け、特色ある教育活動の充実を図り一層信頼される学校づくりを実施して参りました。特に、地域の水産資源を活用した水産実習や2年目に入った土曜授業の「天売学」においては、地域の皆様のご理解とご支援を賜り、より内容の濃い授業を実施することが出来ました。改めて感謝申し上げます。

さて、今年度も生徒たちは素晴らしい活躍を見せてくれました。定通体連では、地区大会に出場した全ての競技で優勝するなど上位を独占し、4人全員が全道大会へ出場することが出来ました。全国大会への出場とはなりませんでしたが、全道大会ではバドミントン・卓球とも上位に食い込みました。生活体験発表大会では、坂本くんの「勇往邁進」という発表が、地区大会最優秀賞を獲得し昨年度に引き続き全道大会へ出場しました。水産クラブ研究発表大会では、「マリンバイオプラスチックⅡ」として、昨年の基礎研究を引継ぎ水産実習の廃棄物から作ったバイオワームについて発表し2年連続の優良賞（全体の2位に相当）を受賞しました。天高祭においては、生徒数は半減しましたが、新たに餅まきを実施したり、講師を依頼して「天売太鼓」をバージョンアップして迫力ある演奏を披露したりすることが出来ました。また、模擬店には同窓生やPTA、一部科目履修生をはじめとする地域の方々にご協力いただき今年も素晴らしい学校祭となりました。

学校開放講座や情報と書道を開講した一部科目履修制度には多くの方々に受講していただくことが出来ました。生徒たちの活躍は、地域の方々の応援があつてこそです。生徒の活動を温かく見守っていただき本当に有り難うございました。終業式において、2年生のふたりに相田みつをさんの「道」について話をしました。「道はじぶんでつくる 道は自分でひらく 人のつくったものは じぶんの道にはならない」というもので、私が仕事をしていく上で大切にしているものです。高校生活も後1年となり、半年後には進路を決定させなければならない時期にきています。自分の足元を見つめ直し、今やるべきことは何なのか。足りないところはどこなのか。しっかり考えて欲しい。そして自分の進むべき「道」を探して欲しい。他人に押しつけられたものでなく自分で考え選択した道に進んで欲しいという内容の話をしました。

平成28年度、天売高校は新たに島外からの新入生を迎え教育目標の具現化に向け、より一層魅力あふれる学校づくりを進めて参ります。次年度も今年度同様、地域の皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

今年度最後の生徒会行事 感動！「予餞会」

在校生4名で行う最後の生徒会行事、予餞会を、2月25日（木）に行いました。

3年生への感謝の気持ちを込めて、この日まで2年生2名は一生懸命企画・準備を進めました。当日は、手作りのお好み焼きの食事会に始まり、イントロクイズ、ジェスチャーゲームなどのレクを先生方も一緒に楽しみました。爆笑のあとは、3年間の思い出のスライドや、ビデオレターを鑑賞しました。さらに、2年生から卒業生へのメッセージ、3年生から在校生へのメッセージを伝えあう頃には全員が感極まって声を詰まらせてしまいました。3年生にとって高校生活最後の生徒会行事予餞会。この日は全校生徒4名にとって最高の1日となりました。



学校開放講座 「スリムアップボディ（SUB）」

2月6日（土）、本校体育教諭の久保田先生による学校開放講座「SUBフィットネス」では、トレーニング理論とスポーツ栄養学について学びました。中学生1名と一般参加者3名が来校し、身体の成り立ちやトレーニングなどについて約2時間の講座を、熱心に受講しました。トレーニングの実践については、各自の家庭で行うことを想定して行いました。今回の講座で運動の楽しさや自らの身体のこと、食事や栄養素など様々なことを学び、受講生のみなさんは大いに刺激を受けた様子でした。本校では次年度以降も様々な内容の学校開放講座を用意し、島民の方々のニーズに応じていく予定です。今後ともよろしくお願ひします。



天売学「天売の未来」 1年間の天売学の集大成！

昨年の12月19日（土）と1月30日（土）に天売学「未来Ⅰ」「未来Ⅱ」の授業を行いました。「未来Ⅰ」では、これまでの天売学で学習した内容を元に、発表原稿とプレゼンテーション用のスライドを作成しました。生徒4名がそれぞれ「歴史」「自然」「観光」「産業」を担当し、講義やフィールドワークで学んだことに自分の考察や主張を加えてまとめました。

「未来Ⅱ」では、作成したスライドを使って発表を行いました。「歴史」では天売島に人が住み始めた経緯や、天売高校の設立について、「自然」では漁獲量と海鳥の食糧の関係性について、「産業」ではホタテ漁の方法やホタテの生態について、「観光」では天売島で実際に行われている観光業や天売高校を活用した観光方法について説明しました。

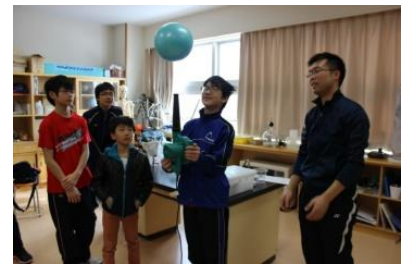
参加された方からは「高校生が島の未来について考えていることがよく分かった」などの感想をいただき、1年間の天売学の総まとめとして素晴らしいものになりました。



学校開放講座 「楽しい実験教室」

2月20日（土）、毎年恒例の学校開放講座「楽しい実験教室」を、本校教諭の高橋先生と中村先生を講師として実施しました。天売中学校の柳谷先生のご協力のもと、参加した小中学生ら8名とともに、身近にありながらも普段あまり意識しない空気について科学的に考える機会を作る目的で、9つの実験を行いました。

はじめに、音と空気についての実験を行いました。真空容器に入れた目覚まし時計のアラーム音が聞こえないことから、音は空気によって伝わることを学びました。目の前にある目覚まし時計が鳴っているはずなのに、全く音が聞こえない現象を参加者はとても不思議に思っている様子でした。次に、大気圧についての実験を行いました。真空容器に入れたスナック菓子の袋が破裂したり、マシュマロが大きくなったりするのを観察するたびに、参加者からは歓声が沸き起こりました。最後に、空気の動きについての実験を行いました。ハンドブローでボールを浮かせたり、自作したペットボトル空気砲でロウソクの火を消したりして、参加者は楽しみながら試行錯誤を繰り返していました。会場を提供してくださいました天売小中学校にお礼申し上げます。



転出者挨拶 ～3名の先生方が転出します～

田尻 勝敏 校長 在籍3年 教科：地歴公民 転出先：根室高等学校



3年前、フェリーターミナルで多くの人に出迎えていただいて着任したことを昨日のように思い出します。この3年間、素晴らしい生徒・心優しい保護者を初めとする地域の方々、そして力のある教職員に囲まれて楽しい日々を過ごすことが出来ました。創立60周年行事や土曜授業「天売学」、そして生徒募集活動などにおいては地域の方々のご協力が無事に業務を進めることが出来、感謝申し上げます。日本一小さな学校での勤務は、私に新たな道を見せてくれました。新任地においても天売で培った「夢を実現する力」を更に発揮できるよう努力して参りたいと思います。天売島、そして天売高校を応援していただいている皆様のますますのご健勝とご多幸をお祈りしております。3年間、お世話になり本当に有り難うございました。

清水 健志 教諭 在籍7年 教科：数学 転出先：苫小牧南高等学校



保護者の皆様や地域の皆様に支えられて過ごした7年間はあっという間でした。おかげさまでとても充実した天売高校での教員生活を送ることができました。

7年間のうち5年間担任として生徒と接し、職場での経験や学校生活を通して大きく成長する姿を間近で見ることができ、とても良い刺激を受けました。7年間に5回ほど実施した学校開放講座「算数・数学教室」では、学校の授業とは一味違った算数・数学に触れ、算数・数学を楽しむ小学生・中学生の姿は忘れられません。小中学生と共に算数・数学を学べたことは天売ならではの経験だったのではないかと思います。

天売での貴重な経験を活かし、新天地でも生徒のため、地域のために頑張ります。7年間本当にありがとうございました。

高橋 浩司 教諭 在籍5年 教科：理科・水産 転出先：茨城県立水戸農業高等学校



5年間という短い間でしたが、地域の皆様にはたいへんお世話になりました。

水産の授業に携わり、生徒たちと汗水垂らしながら実習を行う過程で、様々な経験を積むことができました。初年度は恐る恐る稼働させていた機械類を、数年後には自らの手足のように自在に扱えるようになったことは、とても貴重な思い出です。昭和の咆哮を轟かせる製缶機から生み出された缶詰は、一種の芸術品のように輝いて見えたことを、今でも鮮明に覚えています。そして何より、地域の皆様がこの缶詰を手にして喜んでくださる姿を見ることが、私にとっての喜びでもありました。

これからも遠く離れた地より、新しい時代を迎えた天売高校の発展と、天売島の活性化を祈っております。

